

第52回 県政に関する世論調査の結果について

千葉県総合企画部報道広報課
電話：043-223-2469

県政に関する世論調査は、県民の生活と県政の主要分野にわたる県民の関心、要望、意向などをとらえ、県政推進の基礎資料とすることを目的として、昭和50年度から毎年実施しています。

平成18年度から年2回実施しており、今回は本年度1回目の調査で県内在住の満18歳以上の男女3,000名を対象に実施しました。

具体的な内容としては、環境と生活、健康、福祉、観光、千葉県の農林水産物、防災に関する取り組み、地方分権、広報・広聴活動について県民の意識調査及び「県政への要望」についての調査を行いました。

1 調査の設計

- (1) 調査対象 千葉県在住の満18歳以上の男女個人
- (2) 標本数 3,000人
- (3) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
※層化二段無作為抽出法とは、行政単位と地域によって県内をブロックに分類し(層化)、各層に調査地点を人口に応じて比例配分し、国勢調査における調査区域及び住民基本台帳を利用して(二段)、各地点ごとに一定数のサンプル抽出を行うものである。
- (4) 調査方法 郵送法(郵送配付一郵送回収)
- (5) 調査時期 平成28年8月24日～9月14日

2 回収結果

有効回収数(率) 1,540(51.3%)

3 調査の項目

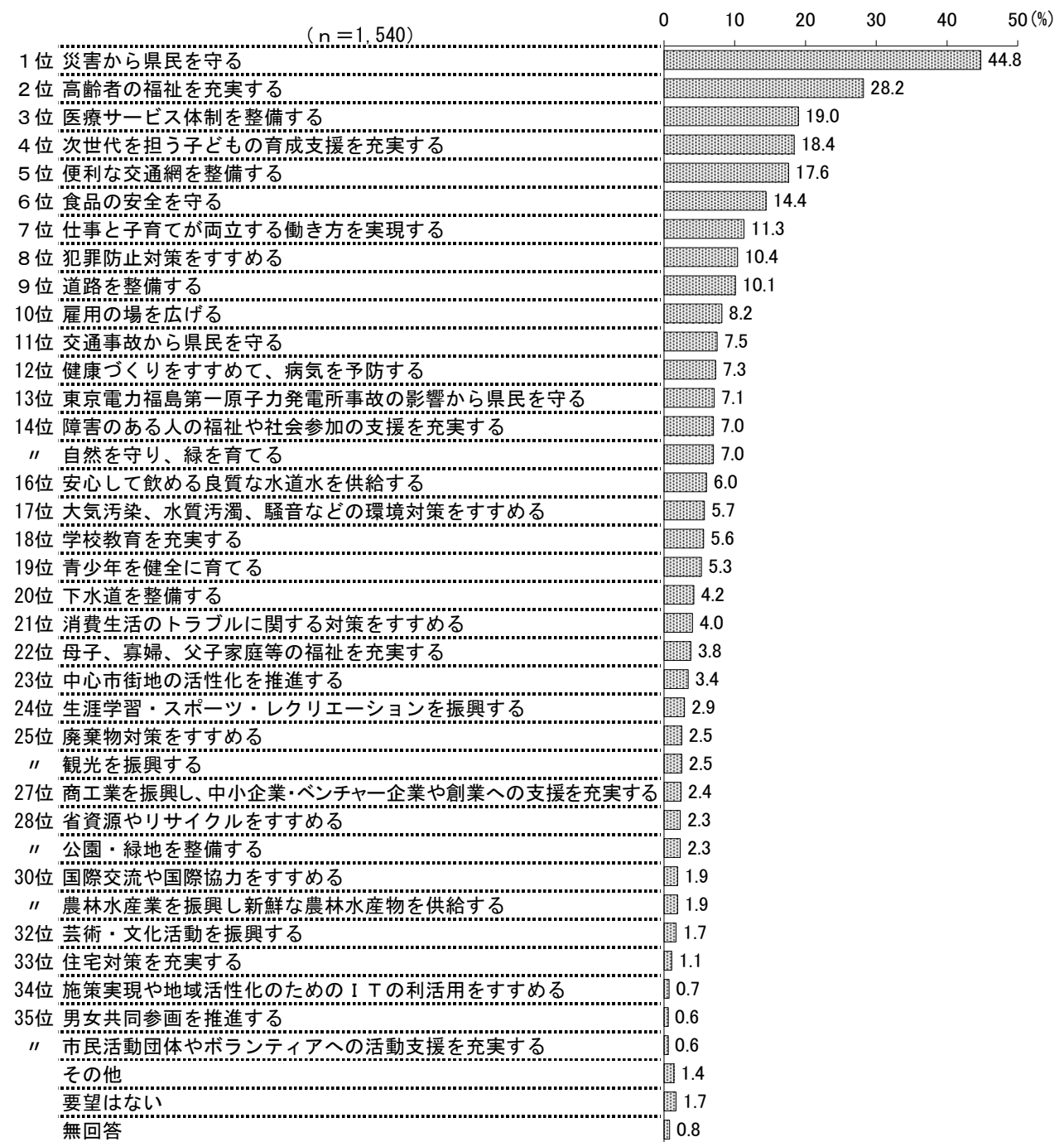
- (1) 県民意識調査
 - ①環境と生活について
 - ②健康について
 - ③福祉について
 - ④観光について
 - ⑤千葉県の農林水産物について
 - ⑥防災に関する取り組みについて
 - ⑦地方分権について
 - ⑧広報・広聴活動について
- (2) 県政への要望

4 調査の結果

1 県政への要望

(1) 県政への要望

(複数回答：3つまで)



今回調査の主な特徴

1. 「災害から県民を守る」(44.8%)が1位で、次いで「高齢者の福祉を充実する」(28.2%)が2位となっており、県民からの要望が特に高い。
2. 「災害から県民を守る」は平成27年度(35.5%)に引き続き1位で、9.3ポイント増加している。
3. 「高齢者の福祉を充実する」は平成27年度(33.7%)に引き続き2位で、5.5ポイント減少している。
4. 「医療サービス体制を整備する」(19.0%)と「次世代を担う子どもの育成支援を充実する」(18.4%)は平成27年度に引き続き3位、4位となっている。「便利な交通網を整備する」(17.6%)は平成27年度の6位(15.5%)から5位へ順位を上げている。

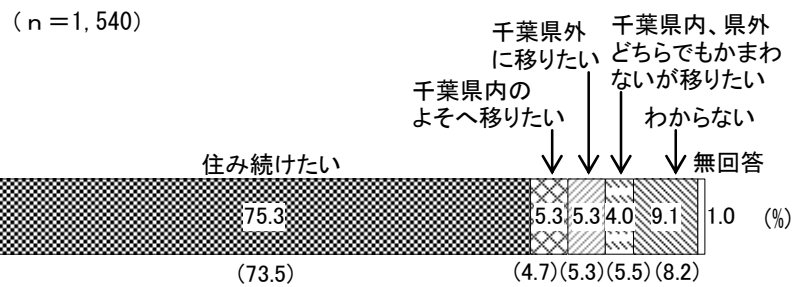
■ 県政への要望／上位 10 項目の推移



2 環境と生活について

(1) 今後の居留意向

現在お住まいの地域の今後の居留意向を聞いたところ、「住み続けたい」(75.3%)が7割台半ばで、「千葉県内のよそへ移りたい」(5.3%)を合わせた『千葉県内に住み続けたい』(80.6%)が8割で高くなっている。一方、「千葉県外に移りたい」は5.3%、「千葉県内、県外どちらでもかまわないが移りたい」は4.0%である。

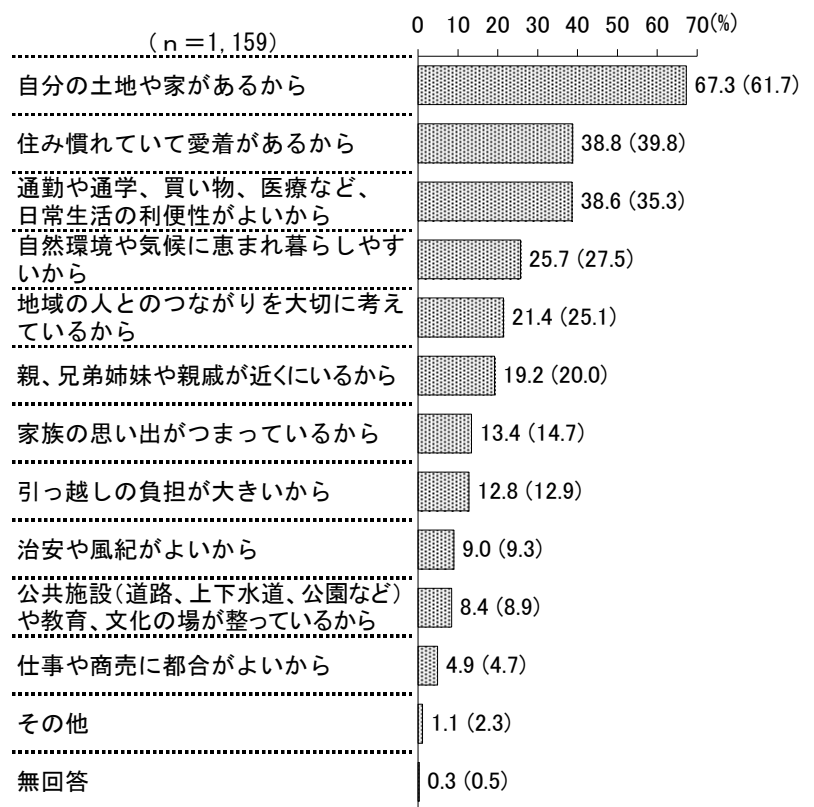


注) 下段の () 書きは、平成 27 年度の調査結果を示している。

(1-1) 住み続けたい理由

(複数回答：3つまで)

「住み続けたい」と回答した1,159人を対象に、住み続けたい理由を3つまで選んでもらったところ、「自分の土地や家があるから」(67.3%)が約7割で最も高く、以下、「住み慣れていて愛着があるから」(38.8%)、「通勤や通学、買い物、医療など、日常生活の利便性がよいから」(38.6%)が続く。

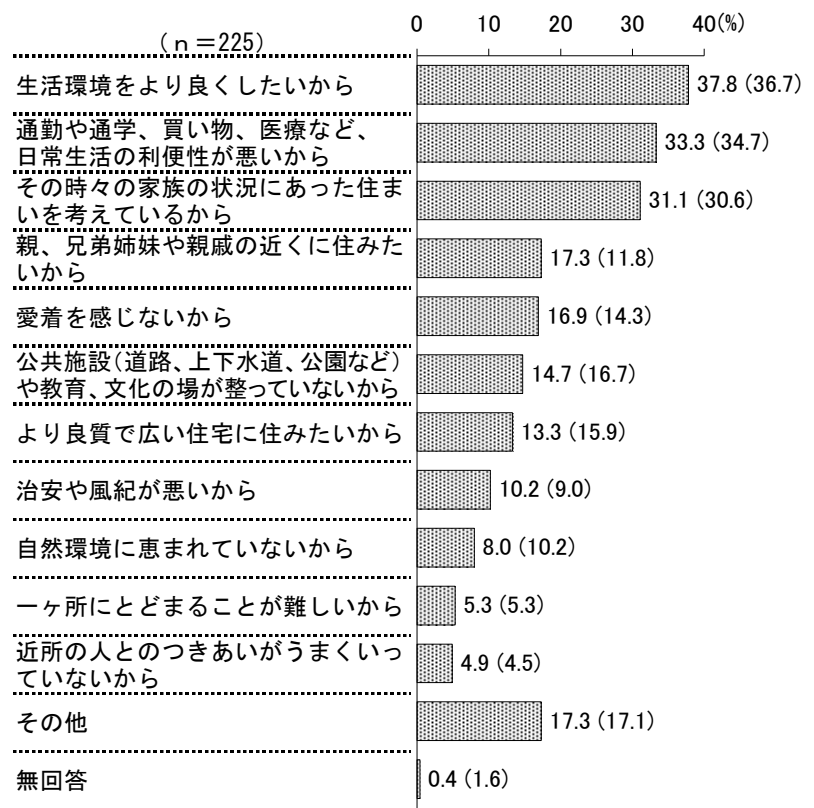


注) () 書きは、平成 27 年度の調査結果を示している。

(1-2) 移りたい理由

(複数回答：3つまで)

「千葉県内のよそへ移りたい」、「千葉県外に移りたい」、「千葉県内、県外どちらでもかまわないが移りたい」と回答した225人を対象に、移りたい理由を3つまで選んでもらったところ、「生活環境をより良くしたいから」(37.8%)が約4割で最も高く、以下、「通勤や通学、買い物、医療など、日常生活の利便性が悪いから」(33.3%)、「その時々家族の状況にあった住まいを考えているから」(31.1%)が続く。

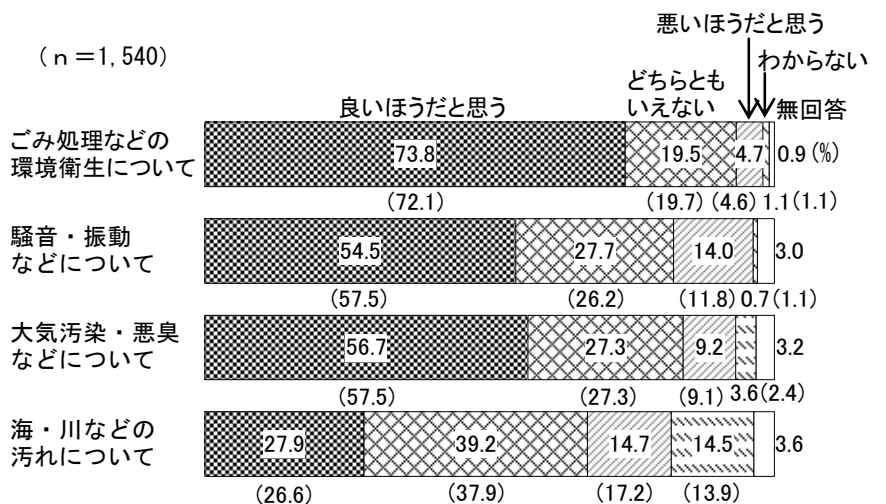


注) () 書きは、平成27年度の調査結果を示している。

(2) 生活環境について

生活環境に関する4つの項目について、それぞれの良し悪しを聞いたところ、「良いほうだと思う」が最も高いのは、「ゴミ処理などの環境衛生について」(73.8%)で7割を超えて高くなっている。以下、「大気汚染・悪臭などについて」(56.7%)と「騒音・振動などについて」(54.5%)が5割台半ばとなっている。

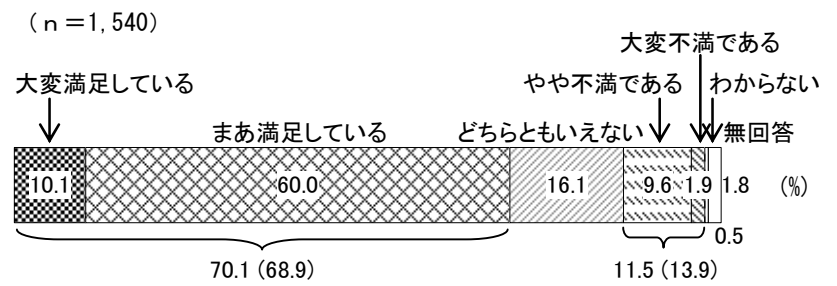
一方、「悪いほうだと思う」は、「海・川などの汚れについて」(14.7%)と「騒音・振動などについて」(14.0%)が1割台半ばとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成27年度の調査結果を示している。

(3) 生活環境全般の満足度

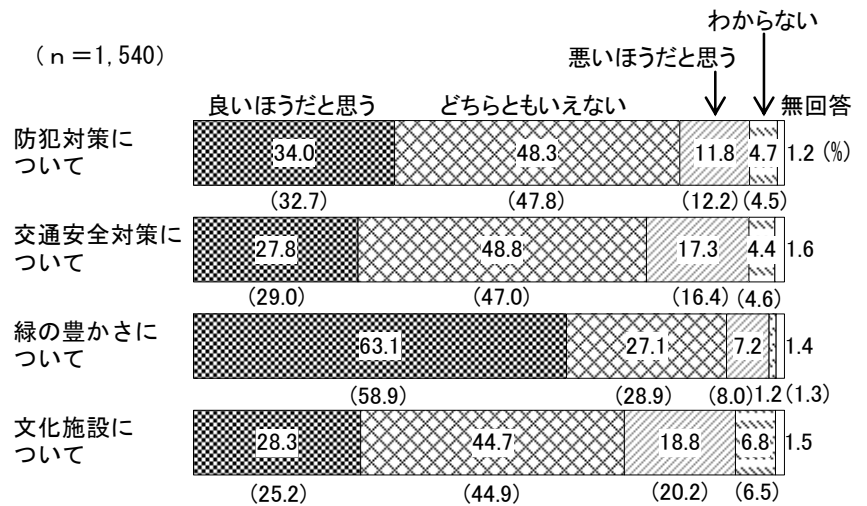
生活環境全般に関する4つの項目の全体について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」(10.1%)と「まあ満足している」(60.0%)を合わせた『満足している』(70.1%)が7割で高くなっている。一方、「やや不満である」(9.6%)と「大変不満である」(1.9%)を合わせた『不満である』(11.5%)は1割を超えている。



注) 下段の () 書きは、平成 27 年度の調査結果を示している。

(4) 自然・周辺環境について

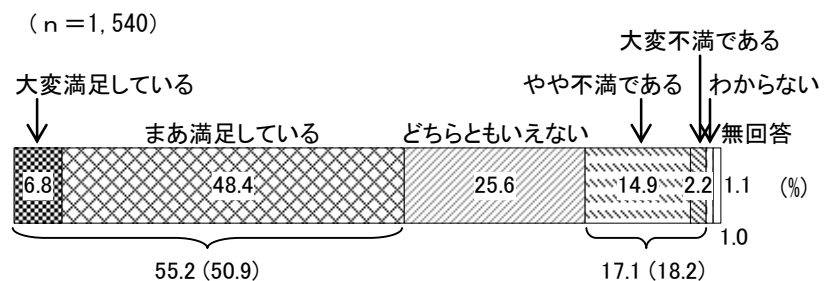
自然・周辺環境に関する4つの項目についてそれぞれの良し悪しを聞いたところ、「良いほうだと思う」が最も高いのは〈緑の豊かさについて〉(63.1%)で6割を超えており、以下、〈防犯対策について〉(34.0%)、〈文化施設について〉(28.3%)、〈交通安全対策について〉(27.8%)が続く。



注) 下段の () 書きは、平成 27 年度の調査結果を示している。

(5) 自然・周辺環境全般の満足度

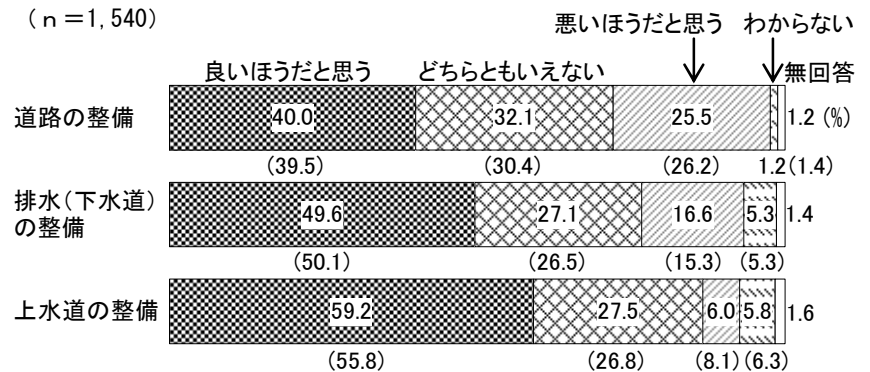
自然・周辺環境に関する4つの項目の全体について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」(6.8%)と「まあ満足している」(48.4%)を合わせた『満足している』(55.2%)が5割台半ばとなっている。一方、「やや不満である」(14.9%)と「大変不満である」(2.2%)を合わせた『不満である』(17.1%)は約2割となっている。



注) 下段の () 書きは、平成 27 年度の調査結果を示している。

(6) 基盤整備について

基盤整備に関する3つの項目について、それぞれの良し悪しを聞いたところ、「良いほうだと思う」が最も高いのは、〈上水道の整備〉(59.2%)で約6割となっている。以下、〈排水(下水道)の整備〉(49.6%)が約5割、〈道路の整備〉(40.0%)が4割となっている。

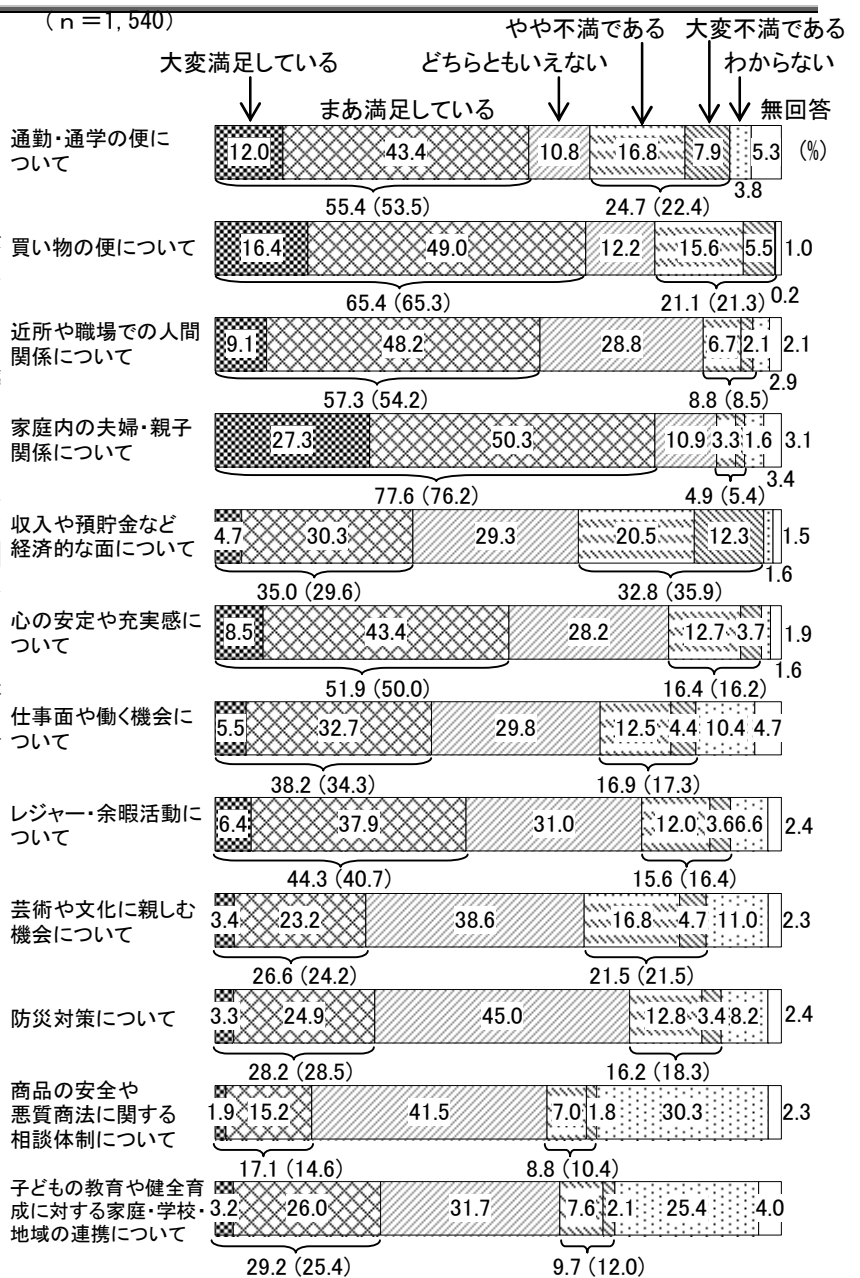


注) 下段の () 書きは、平成27年度の調査結果を示している。

(7) 現在の生活の満足度

現在の生活に関する12個の項目について、それぞれの満足度を聞いたところ、「大変満足している」と「まあ満足している」を合わせた『満足している』が最も高いのは、〈家庭内の夫婦・親子関係について〉(77.6%)で約8割となっている。以下、〈買い物物の便について〉(65.4%)、〈近所や職場での人間関係について〉(57.3%)と続く。

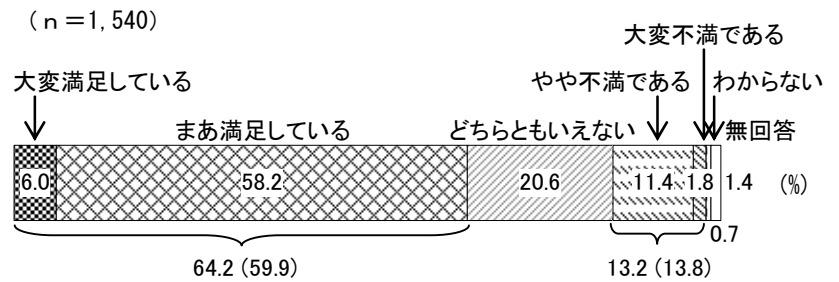
一方、「やや不満である」と「大変不満である」を合わせた『不満である』が最も高いのは、〈収入や預貯金など経済的な面について〉(32.8%)で3割を超えている。以下、〈通勤・通学の便について〉(24.7%)が2割台半ばとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成27年度の調査結果を示している。

(8) 住生活全般の満足度

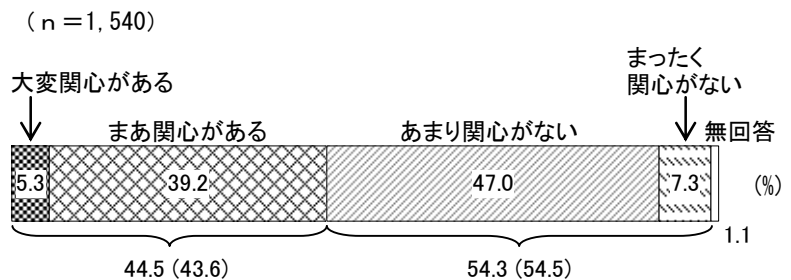
現在の住生活全般（住まい・環境・地域社会）に関する満足度を聞いたところ、「大変満足している」（6.0%）と「まあ満足している」（58.2%）を合わせた『満足している』（64.2%）が6割台半ばで高くなっている。一方、「やや不満である」（11.4%）と「大変不満である」（1.8%）を合わせた『不満である』（13.2%）は1割を超えている。



注) 下段の () 書きは、平成 27 年度の調査結果を示している。

(9) 市民活動団体やボランティア活動の関心度

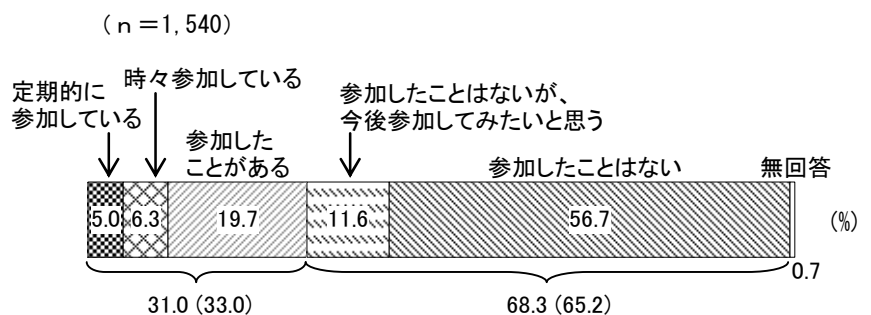
市民活動団体の活動や、ボランティア活動の関心度を聞いたところ、「大変関心がある」（5.3%）と「まあ関心がある」（39.2%）を合わせた『関心がある』（44.5%）が4割台半ばとなっている。一方、「あまり関心がない」（47.0%）と「まったく関心がない」（7.3%）を合わせた『関心がない』（54.3%）は5割台半ばとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成 27 年度の調査結果を示している。

(10) 市民活動団体の活動への参加経験

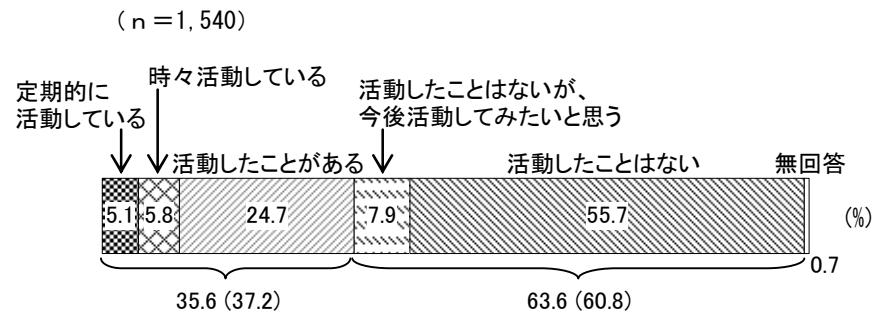
市民活動団体の活動への参加経験を聞いたところ、「定期的に参加している」（5.0%）と「時々参加している」（6.3%）、「参加したことがある」（19.7%）の3つを合わせた『参加したことがある』（31.0%）が3割を超えている。一方、「参加したことはないが、今後参加してみたいと思う」（11.6%）は1割を超えており、「参加したことはない」（56.7%）は5割台半ばとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成 27 年度の調査結果を示している。

(11) ボランティア活動経験

ボランティアとして活動したことがあるか聞いたところ、「定期的に活動している」(5.1%)と「時々活動している」(5.8%)、「活動したことがある」(24.7%)の3つを合わせた『活動したことがある』(35.6%)が3割台半ばとなっている。一方、「活動したことはないが、今後活動してみたいと思う」(7.9%)は約1割、「活動したことはない」(55.7%)は5割台半ばとなっている。

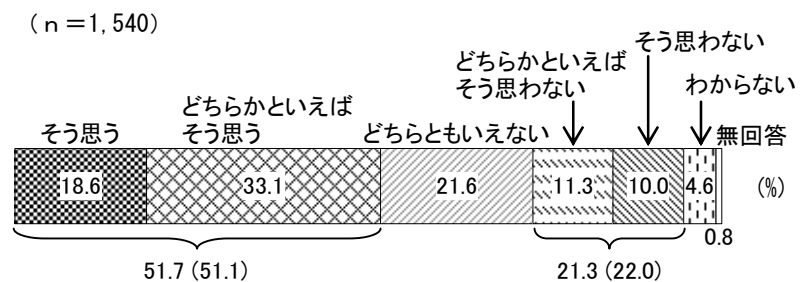


注) 下段の () 書きは、平成 27 年度の調査結果を示している。

3 健康について

(1) 健康づくりに取り組むことができる環境

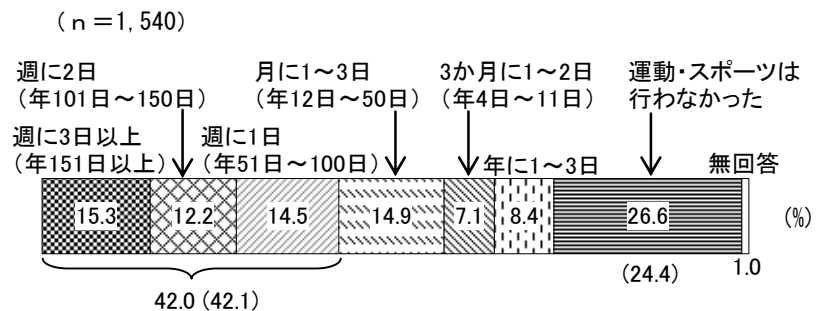
自分が積極的に健康づくりに取り組むことができる環境にあると思うか聞いたところ、「そう思う」(18.6%)と「どちらかといえばそう思う」(33.1%)を合わせた『そう思う』(51.7%)が5割を超えている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(11.3%)と「そう思わない」(10.0%)を合わせた『そう思わない』(21.3%)は2割を超えている。



注) 下段の () 書きは、平成 27 年度の調査結果を示している。

(2) 健康づくりのための運動

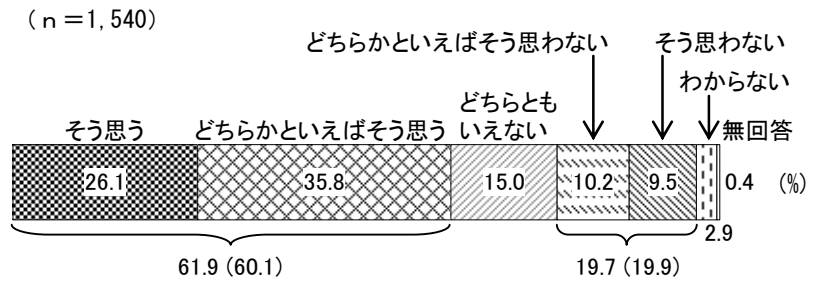
健康づくりなどのために1年間に何日くらい運動やスポーツを行ったかを聞いたところ、「週に3日以上(年151日以上)」(15.3%)と「週に2日(年101日~150日)」(12.2%)、「週に1日(年51日~100日)」(14.5%)を合わせた『週1日以上運動した』(42.0%)が4割を超えている。一方、「運動・スポーツは行わなかった」(26.6%)は2割台半ばとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成 27 年度の調査結果を示している。

(3) 安心して受診できる医療体制

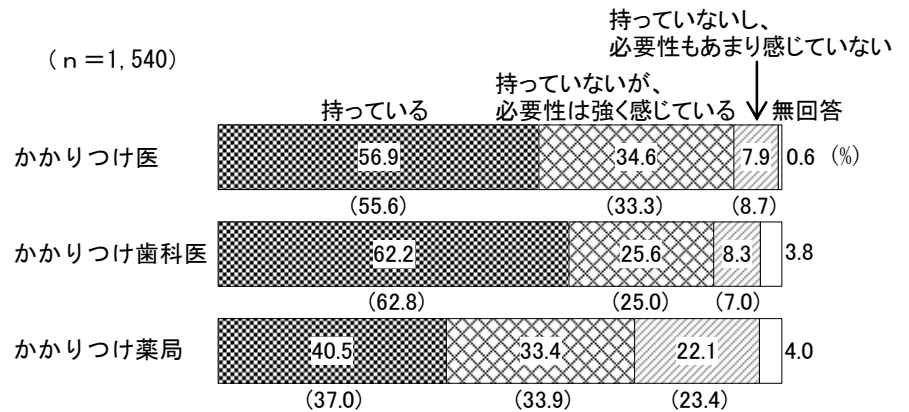
住み慣れた地域で安心して受診できる医療体制が整っていると思うか聞いたところ、「そう思う」(26.1%)と「どちらかといえばそう思う」(35.8%)を合わせた『そう思う』(61.9%)が6割を超えて高くなっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(10.2%)と「そう思わない」(9.5%)を合わせた『そう思わない』(19.7%)は約2割である。



注) 下段の () 書きは、平成27年度の調査結果を示している。

(4) かかりつけ医の有無

かかりつけの医師、歯科医師、薬局を持っているかどうかを聞いたところ、「持っている」は〈かかりつけ歯科医〉(62.2%)が6割を超え、〈かかりつけ医〉(56.9%)が5割台半ば、〈かかりつけ薬局〉(40.5%)が4割となっている。また、「持っていないが、必要性は強く感じている」は〈かかりつけ医〉(34.6%)が3割台半ばとなっている。「持っていないし、必要性もあまり感じていない」は〈かかりつけ薬局〉(22.1%)が2割を超えている。

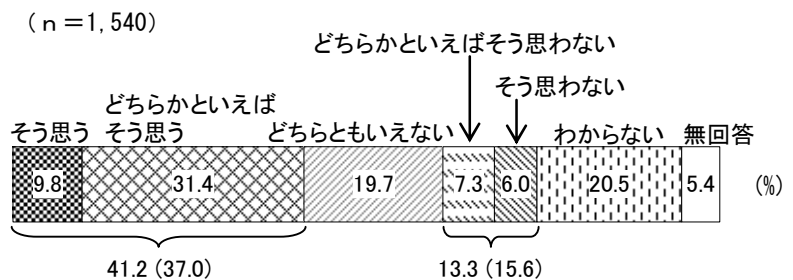


注) 下段の () 書きは、平成27年度の調査結果を示している。

4 福祉について

(1) 安心して子育てできる環境

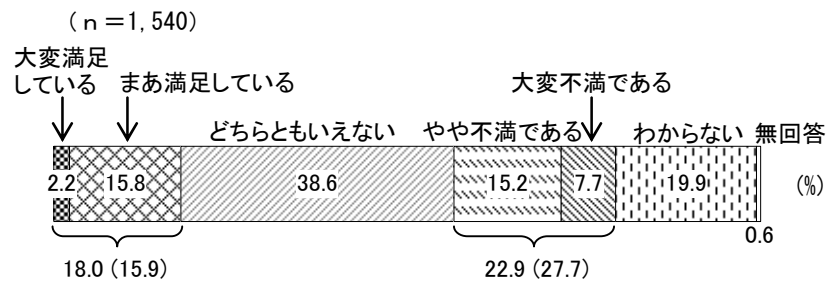
自分が安心して子育てできる環境にあると思うか聞いたところ、「そう思う」(9.8%)と「どちらかといえばそう思う」(31.4%)を合わせた『そう思う』(41.2%)が4割を超えている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(7.3%)と「そう思わない」(6.0%)を合わせた『そう思わない』(13.3%)は1割を超えている。



注) 下段の () 書きは、平成27年度の調査結果を示している。

(2) お年寄りが安心して暮らせる高齢者対策について

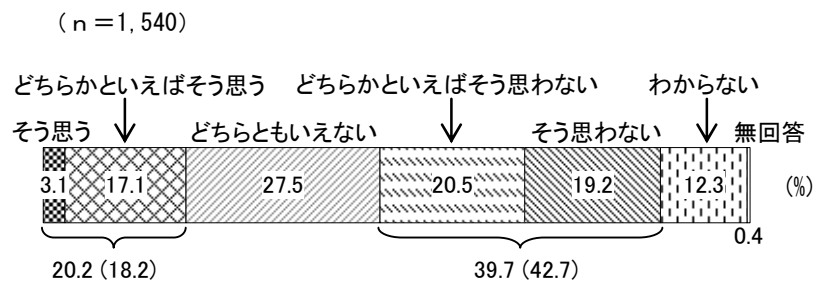
お年寄りが安心して暮らせる高齢者対策についてどう感じているか聞いたところ、「大変満足している」(2.2%)と「まあ満足している」(15.8%)を合わせた『満足している』(18.0%)が約2割となっている。一方、「やや不満である」(15.2%)と「大変不満である」(7.7%)を合わせた『不満である』(22.9%)は2割を超えている。



注) 下段の () 書きは、平成 27 年度の調査結果を示している。

(3) 安心して暮らせる地域社会づくりについて

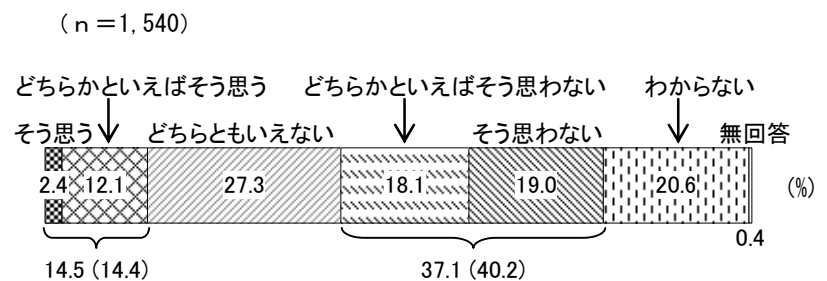
地域住民が互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会づくりが進められていると思うか聞いたところ、「そう思う」(3.1%)と「どちらかといえばそう思う」(17.1%)を合わせた『そう思う』(20.2%)が2割となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(20.5%)と「そう思わない」(19.2%)を合わせた『そう思わない』(39.7%)は約4割となっている。



注) 下段の () 書きは、平成 27 年度の調査結果を示している。

(4) 障害のある人がその人らしく暮らせる社会づくりについて

障害のある人がその人らしく暮らせる社会づくりが進められていると思うか聞いたところ、「そう思う」(2.4%)と「どちらかといえばそう思う」(12.1%)を合わせた『そう思う』(14.5%)が1割台半ばとなっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(18.1%)と「そう思わない」(19.0%)を合わせた『そう思わない』(37.1%)は約4割となっている。



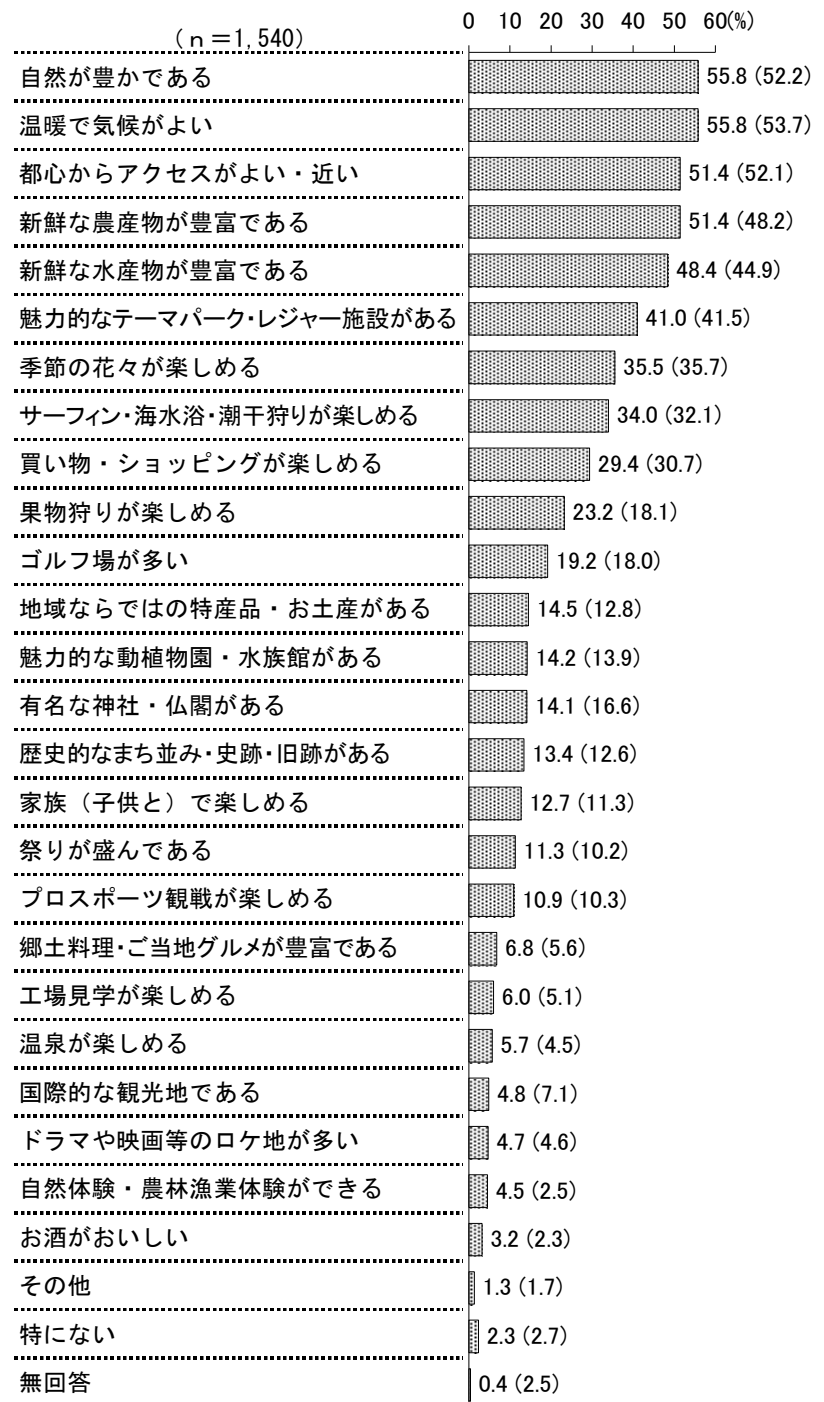
注) 下段の () 書きは、平成 27 年度の調査結果を示している。

5 観光について

(1) 千葉県の魅力

(複数回答：いくつでも)

千葉県の魅力は何だと思うか聞いたところ、「自然が豊かである」(55.8%)と「温暖で気候がよい」(55.8%)が5割台半ばで最も高く、以下、「都心からアクセスがよい・近い」(51.4%)、「新鮮な農産物が豊富である」(51.4%)、「新鮮な水産物が豊富である」(48.4%)が続く。

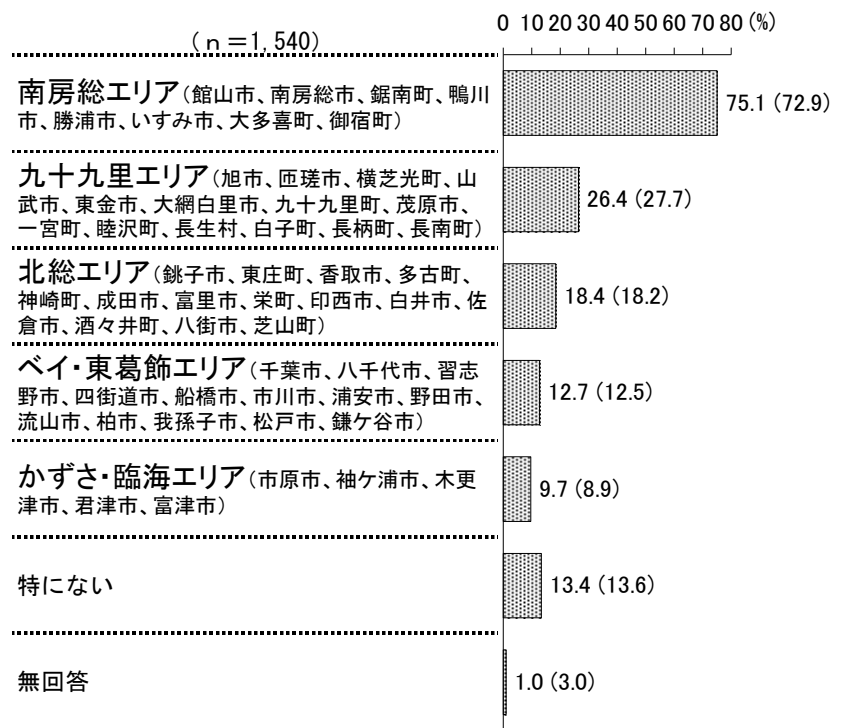


注) () 書きは、平成 27 年度の調査結果を示している。

(2) 県内で旅行に行きたいエリア

(複数回答：いくつでも)

県内で旅行に行きたいエリアはどこか聞いたところ、「南房総エリア」(75.1%)が7割台半ばで最も高く、以下、「九十九里エリア」(26.4%)、「北総エリア」(18.4%)、「ベイ・東葛飾エリア」(12.7%)、「かずさ・臨海エリア」(9.7%)が続く。

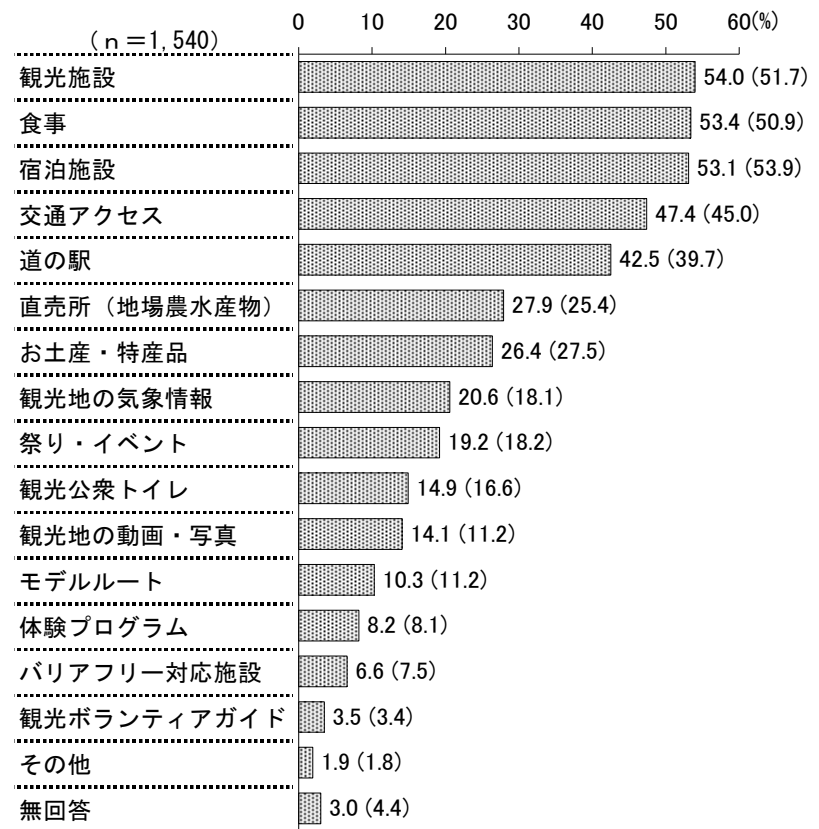


注) () 書きは、平成 27 年度の調査結果を示している。

(3) 県内を観光する際に事前に知りたい情報

(複数回答：いくつでも)

県内を観光する際に事前に知りたい情報は何か聞いたところ、「観光施設」(54.0%)が5割台半ばで最も高く、以下、「食事」(53.4%)、「宿泊施設」(53.1%)、「交通アクセス」(47.4%)、「道の駅」(42.5%)が続く。

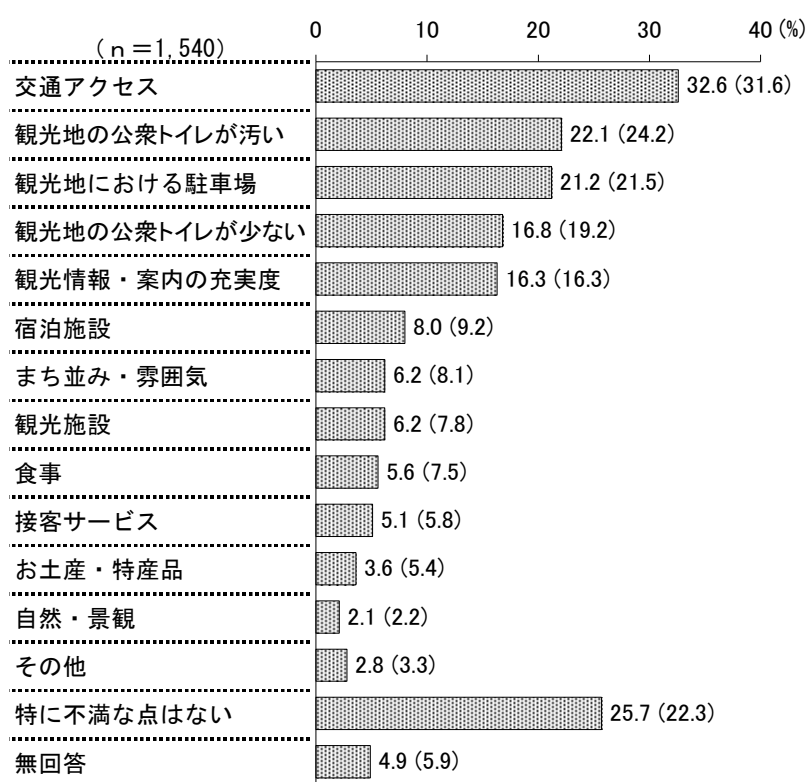


注) () 書きは、平成 27 年度の調査結果を示している。

(4) 県内を観光する際の不満

(複数回答：いくつでも)

県内を観光する際に不満を感じることを聞いたところ、「交通アクセス」(32.6%)が3割を超えて最も高く、以下、「観光地の公衆トイレが汚い」(22.1%)、「観光地における駐車場」(21.2%)、「観光地の公衆トイレが少ない」(16.8%)、「観光地の公衆トイレが少ない」(16.8%)、「観光情報・案内の充実度」(16.3%)が続く。

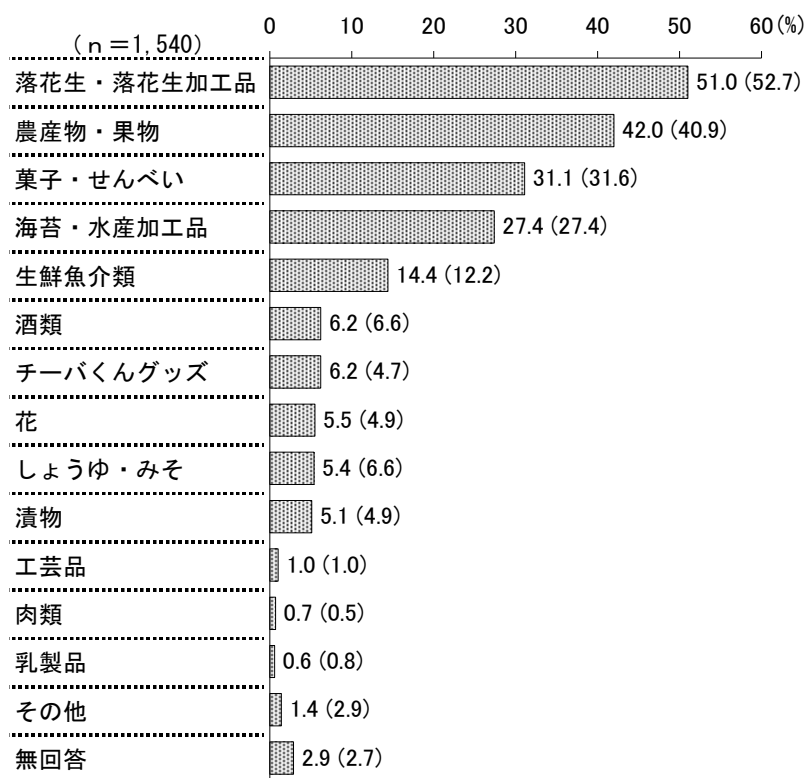


注) () 書きは、平成 27 年度の調査結果を示している。

(5) 県産品をお土産や贈答品として使う場合、贈るもの

(複数回答：3つまで)

県産品をお土産や贈答品として使う場合、何を贈るか3つまで選んでもらったところ、「落花生・落花生加工品」(51.0%)が5割を超えて最も高く、以下、「農産物・果物」(42.0%)、「菓子・せんべい」(31.1%)、「海苔・水産加工品」(27.4%)、「生鮮魚介類」(14.4%)が続く。

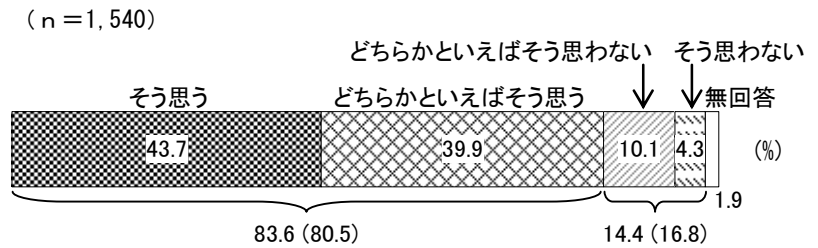


注) () 書きは、平成 27 年度の調査結果を示している。

6 千葉県産農林水産物について

(1) 千葉県産農林水産物の購入意向

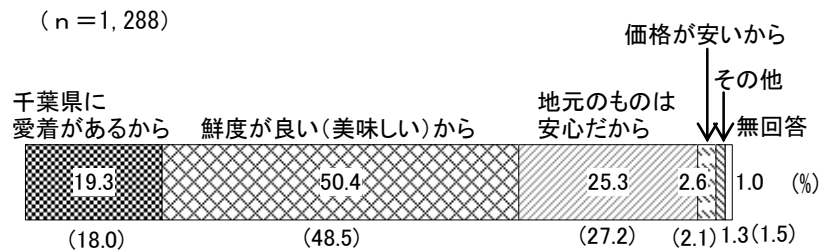
千葉県産農林水産物を購入したいと思うか聞いたところ、「そう思う」(43.7%)と「どちらかといえばそう思う」(39.9%)を合わせた『そう思う』(83.6%)が8割台半ばで高くなっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(10.1%)と「そう思わない」(4.3%)を合わせた『そう思わない』(14.4%)は1割台半ばとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成 27 年度の調査結果を示している。

(1-1) 千葉県産農林水産物を購入したいと思う理由

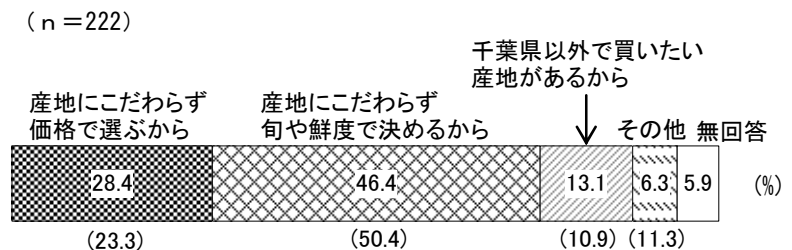
千葉県産農林水産物を購入したいと答えた1,288人を対象に、その主な理由を聞いたところ、「鮮度が良い(美味しい)から」(50.4%)が5割で最も高く、以下、「地元のもの安心だから」(25.3%)、「千葉県に愛着があるから」(19.3%)、「価格が安いから」(2.6%)が続く。



注) 下段の () 書きは、平成 27 年度の調査結果を示している。

(1-2) 千葉県産農林水産物を購入したいと思わない理由

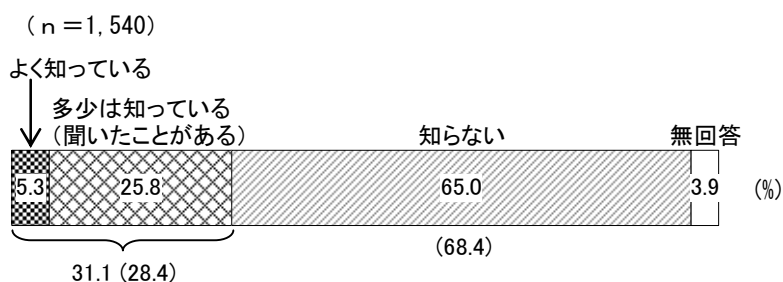
千葉県産農林水産物を購入したいと思わないと答えた222人を対象に、その主な理由を聞いたところ、「産地にこだわらず旬や鮮度で決めるから」(46.4%)が4割台半ばで最も高く、以下、「産地にこだわらず価格で選ぶから」(28.4%)、「千葉県以外で買いたい産地があるから」(13.1%)が続く。



注) 下段の () 書きは、平成 27 年度の調査結果を示している。

(2) 「ちばエコ農産物」の認知度

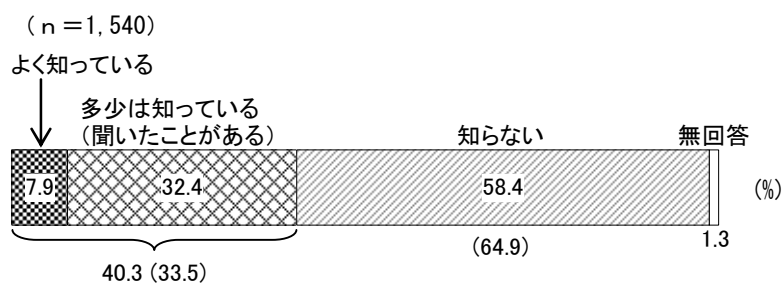
「ちばエコ農産物」を知っているか聞いたところ、「よく知っている」(5.3%)と「多少は知っている(聞いたことがある)」(25.8%)を合わせた『知っている』(31.1%)が3割を超えている。一方、「知らない」(65.0%)は6割台半ばとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成 27 年度の調査結果を示している。

(3) 「千葉ブランド水産物」の認知度

「千葉ブランド水産物」を知っているか聞いたところ、「よく知っている」(7.9%)と「多少は知っている(聞いたことがある)」(32.4%)を合わせた『知っている』(40.3%)が4割となっている。一方、「知らない」(58.4%)は約6割となっている。

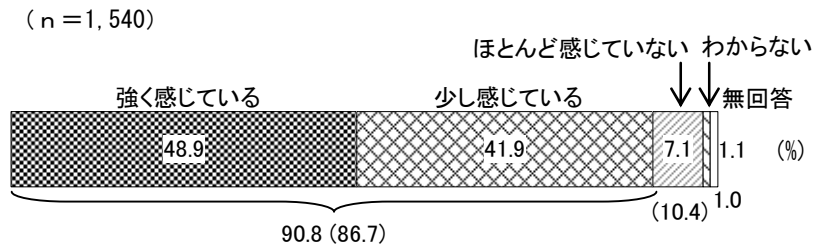


注) 下段の () 書きは、平成 27 年度の調査結果を示している。

7 防災に関する取り組みについて

(1) 大地震や風水害への不安

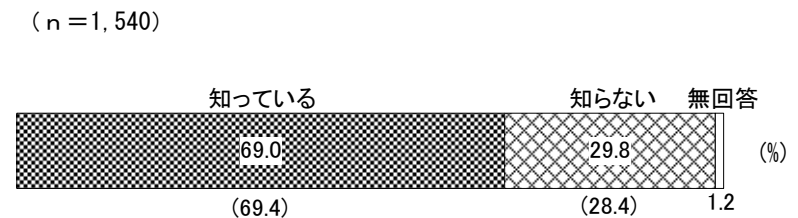
大地震や風水害への不安を聞いたところ、「強く感じている」(48.9%)と「少し感じている」(41.9%)を合わせた『感じている』(90.8%)が9割で高くなっている。一方、「ほとんど感じていない」(7.1%)は約1割である。



注) 下段の () 書きは、平成 27 年度の調査結果を示している。

(2) 「避難勧告」「避難指示」の意味や違いの認知度

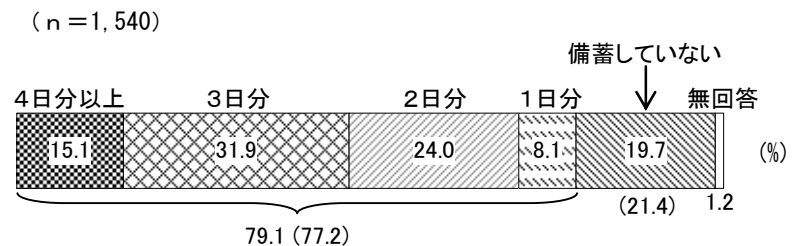
「避難勧告」「避難指示」の意味や違いを知っているか聞いたところ、「知っている」(69.0%)が約7割で高くなっている。一方、「知らない」(29.8%)は約3割となっている。



注) 下段の () 書きは、平成 27 年度の調査結果を示している。

(3) 飲料水や食料の備蓄状況

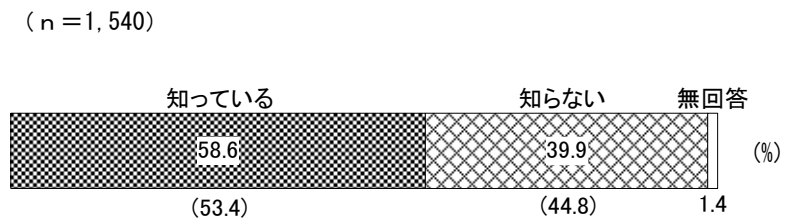
飲料水や食料の備蓄状況を聞いたところ、「3日分」(31.9%)が3割を超え、「2日分」(24.0%)が2割台半ば、「4日分以上」(15.1%)が1割台半ば、「1日分」(8.1%)が約1割となっており、この4つを合わせた『備蓄している』(79.1%)が約8割となっている。一方、「備蓄していない」(19.7%)は約2割となっている。



注) 下段の () 書きは、平成 27 年度の調査結果を示している。

(4) 災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度

災害伝言板・災害用伝言ダイヤルを知っているかを聞いたところ、「知っている」(58.6%)が約6割となっている。一方、「知らない」(39.9%)は約4割となっている。

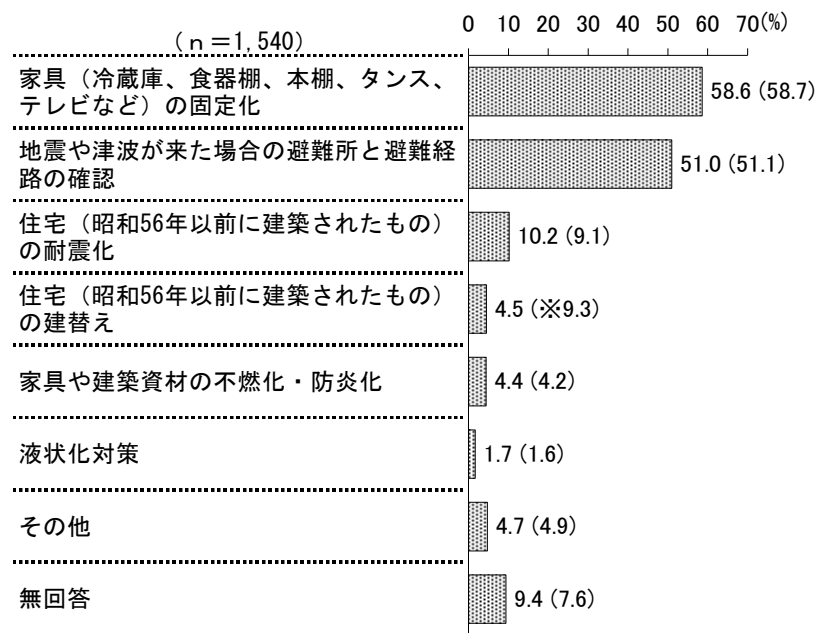


注) 下段の () 書きは、平成27年度の調査結果を示している。

(5) 地震の被害を防ぐための対策

(複数回答：いくつでも)

地震の被害を防ぐため、どのような対策を行っている(行う予定)か聞いたところ、「家具(冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど)の固定化」(58.6%)が約6割で最も高く、以下、「地震や津波が来た場合の避難所と避難路の確認」(51.0%)、「住宅(昭和56年以前に建築されたもの)の耐震化」(10.2%)が続く。



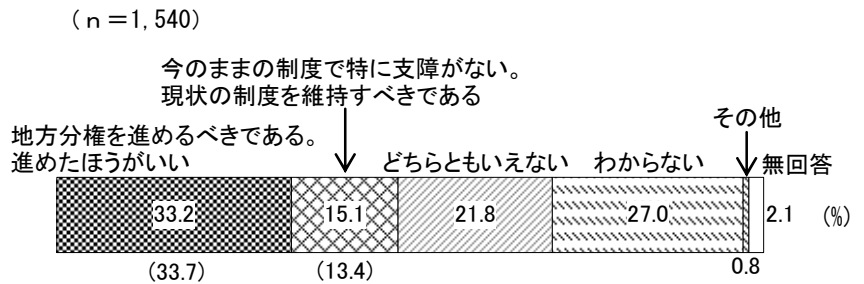
注1) () 書きは、平成27年度の調査結果を示している。

注2) 「住宅(平成56年以前に建築されたもの)の建替え」の選択肢は、平成27年度調査では「住宅の建替え(昭和57年以降)」としていた。

8 地方分権について

(1) 地方分権を今後さらに進めていくべきか否か

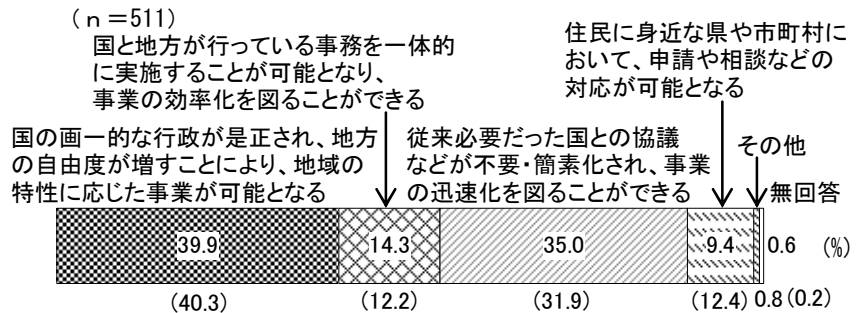
地方分権を今後さらに進めていくべきかどうかを聞いたところ、「地方分権を進めるべきである。進めたほうがいい」(33.2%)が3割を超えている。「今のままの制度で特に支障がない。現状の制度を維持すべきである」(15.1%)は1割台半ばとなっている。「どちらともいえない」(21.8%)は2割を超え、「わからない」(27.0%)は約3割である。



注) 下段の () 書きは、平成 27 年度の調査結果を示している。

(1-1) 「地方分権」で期待する主な効果

「地方分権を進めるべきである。進めたほうがいい」と答えた511人を対象に、地方分権を進めることにより、主にどのような効果を期待するか聞いたところ、「国の画一的な行政が是正され、地方の自由度が増すことにより、地域の特性に応じた事業が可能となる」(39.9%)が約4割で最も高く、以下、「従来必要だった国との協議などが不要・簡素化され、事業の迅速化を図ることができる」(35.0%)、「国と地方が行っている事務を一体的に実施することが可能となり、事業の効率化を図ることができる」(14.3%)が続く。

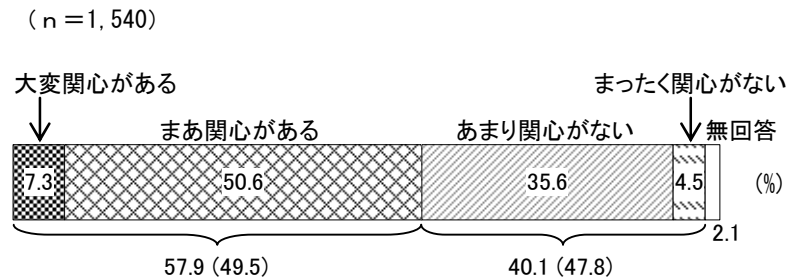


注) 下段の () 書きは、平成 27 年度の調査結果を示している。

9 広報・広聴活動について

(1) 県の施策や政策などについての関心度

県の施策や政策などについての関心度を聞いたところ、「大変関心がある」(7.3%)と「まあ関心がある」(50.6%)を合わせた『関心がある』(57.9%)が約6割で高くなっている。一方、「あまり関心がない」(35.6%)と「まったく関心がない」(4.5%)を合わせた『関心がない』(40.1%)は4割となっている。

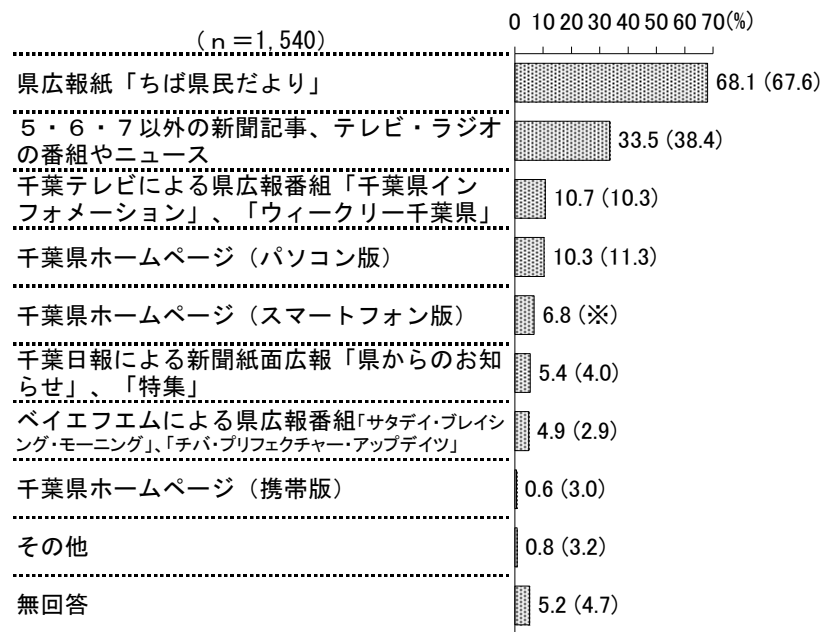


注) 下段の () 書きは、平成 27 年度の調査結果を示している。

(2) 県政に関する情報を得る手段

(複数回答：いくつでも)

県政に関する情報を得る手段を聞いたところ、「県広報紙『ちば県民だより』」(68.1%)が約7割で最も高く、以下、「5・6・7以外の新聞記事、テレビ・ラジオの番組やニュース」(33.5%)、「千葉テレビによる県広報番組『千葉県インフォメーション』、『ウィークリー千葉県』」(10.7%)、「千葉県ホームページ(パソコン版)」(10.3%)、「千葉県ホームページ(スマートフォン版)」(6.8%)、「千葉日報による新聞紙面広報『県からのお知らせ』、『特集』」(5.4%)、「ベイエフエムによる県広報番組『サタデー・プレイング・モーニング』、『チバ・プリフェクチャー・アップデート』」(4.9%)、「千葉県ホームページ(携帯版)」(0.6%)、「その他」(0.8%)、「無回答」(5.2%)が続く。



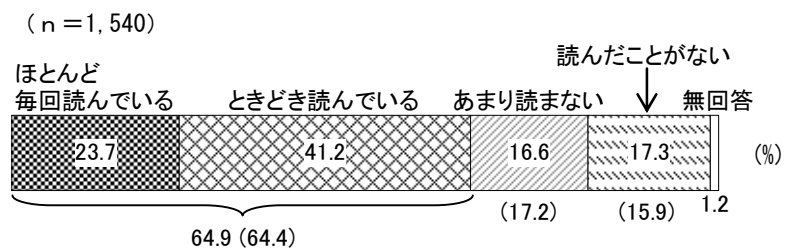
(※) 「5・6・7以外の新聞記事、テレビ・ラジオの番組やニュース」における、5・6・7とは、「千葉日報による新聞紙面広報『県からのお知らせ』、『特集』」、「千葉テレビによる県広報番組『千葉県インフォメーション』、『ウィークリー千葉県』」、「ベイエフエムによる県広報番組『サタデー・プレイング・モーニング』、『チバ・プリフェクチャー・アップデート』」を指す。

注1) () 書きは、平成 27 年度の調査結果を示している。

注2) 「千葉県ホームページ(スマートフォン版)」は今年度から追加項目

(3) 県広報紙「ちば県民だより」の閲読状況

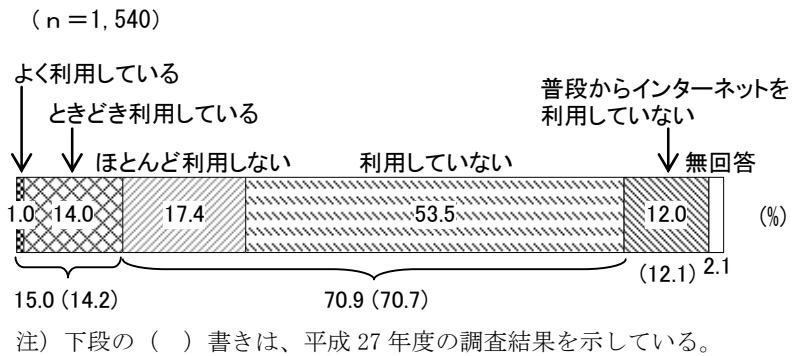
県広報紙「ちば県民だより」の閲読状況を聞いたところ、「ほとんど毎回読んでいる」(23.7%)と「ときどき読んでいる」(41.2%)を合わせた『読んでいる』(64.9%)が6割台半ばとなっている。一方、「あまり読まない」(16.6%)は1割台半ば、「読んだことがない」(17.3%)は約2割となっている。



注) 下段の () 書きは、平成 27 年度の調査結果を示している。

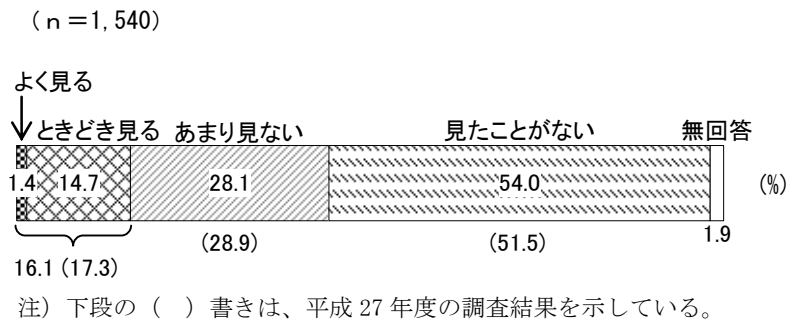
(4) 千葉県ホームページの利用頻度

千葉県ホームページの利用頻度を聞いたところ、「よく利用している」(1.0%)と「ときどき利用している」(14.0%)を合わせた『利用している』(15.0%)が1割台半ばとなっている。一方、「ほとんど利用しない」(17.4%)と「利用していない」(53.5%)を合わせた『利用していない』(70.9%)は7割となっている。



(5) 県の広報番組の視聴状況

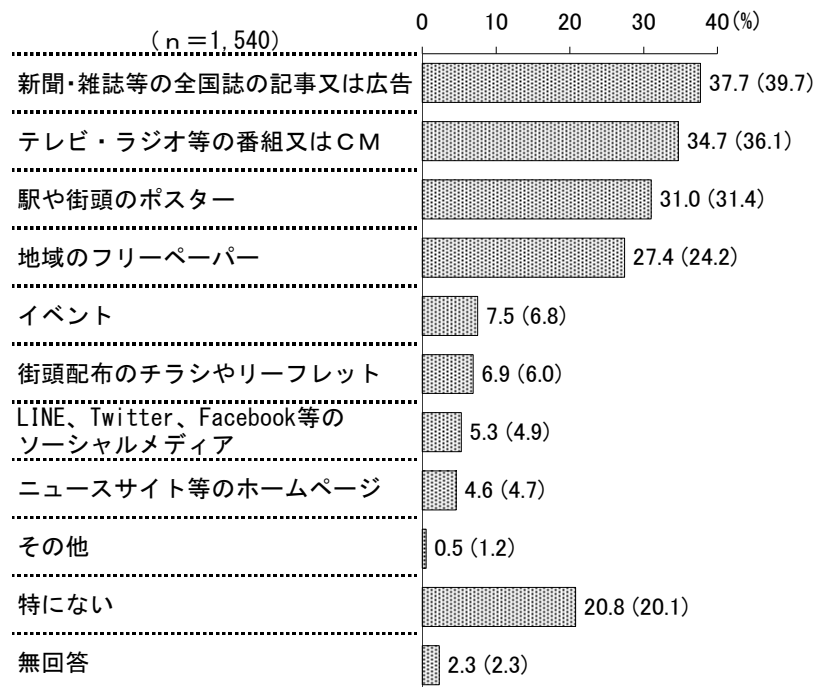
県の広報番組の視聴状況を聞いたところ、「よく見る」(1.4%)と「ときどき見る」(14.7%)を合わせた『見る』(16.1%)が1割台半ばとなっている。一方、「あまり見ない」(28.1%)は約3割、「見たことがない」(54.0%)は5割台半ばとなっている。



(6) 県の広報以外の媒体での県情報の視聴状況

(複数回答：いくつでも)

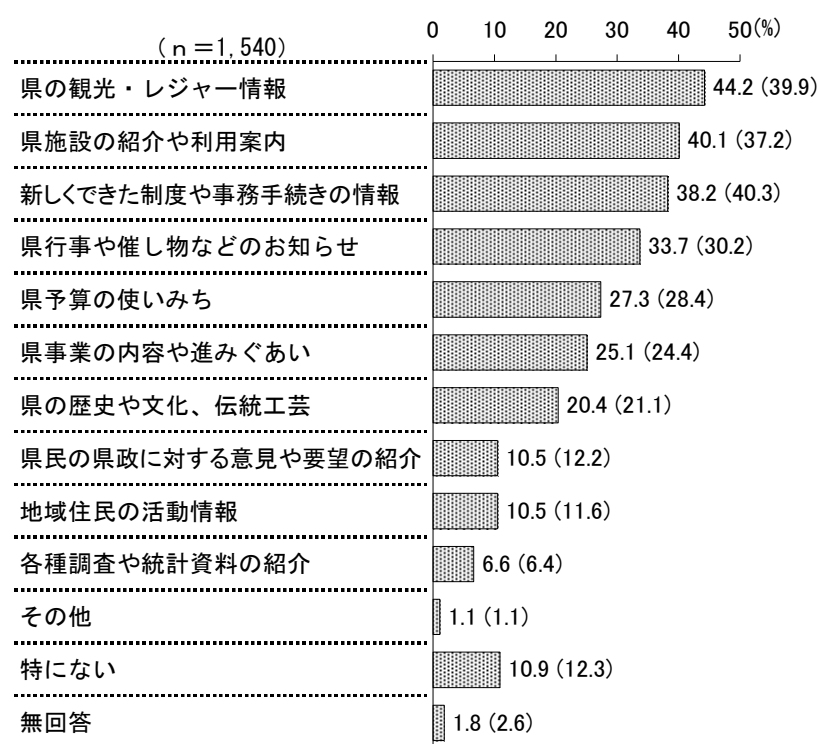
県の広報以外の媒体での県情報の視聴状況を聞いたところ、「新聞・雑誌等の全国誌の記事又は広告」(37.7%)が約4割で最も高く、以下、「テレビ・ラジオ等の番組又はCM」(34.7%)、「駅や街頭のポスター」(31.0%)、「地域のフリーペーパー」(27.4%)が続いている。



(7) 県の知りたい情報

(複数回答：いくつでも)

県のどのような情報が知りたいか聞いたところ、「県の観光・レジャー情報」(44.2%)が4割台半ばで最も高く、以下、「県施設の紹介や利用案内」(40.1%)、「新しくできた制度や事務手続きの情報」(38.2%)、「県行事や催し物などのお知らせ」(33.7%)、「県予算の使いみち」(27.3%)が続く。

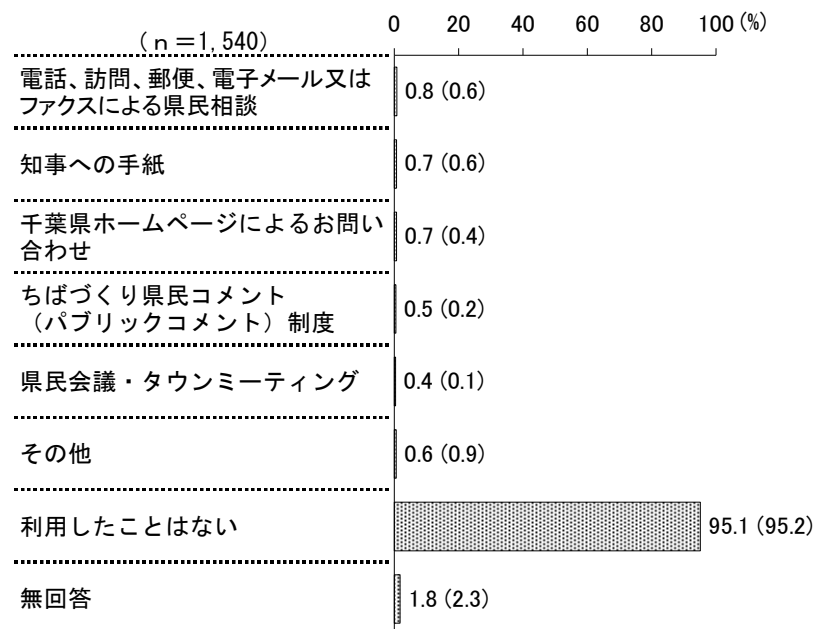


注) () 書きは、平成 27 年度の調査結果を示している。

(8) 知事への手紙などで意見を述べた経験

(複数回答：いくつでも)

知事への手紙などで意見を述べたことがあるか聞いたところ、「利用したことはない」(95.1%)が9割台半ばとなっている。利用したことがあるものでは、「電話、訪問、郵便、電子メール又はファクスによる県民相談」が0.8%、「知事への手紙」と「千葉県ホームページによるお問い合わせ」が0.7%、「知事への手紙」と「千葉県ホームページによるお問い合わせ」が0.7%となっている。

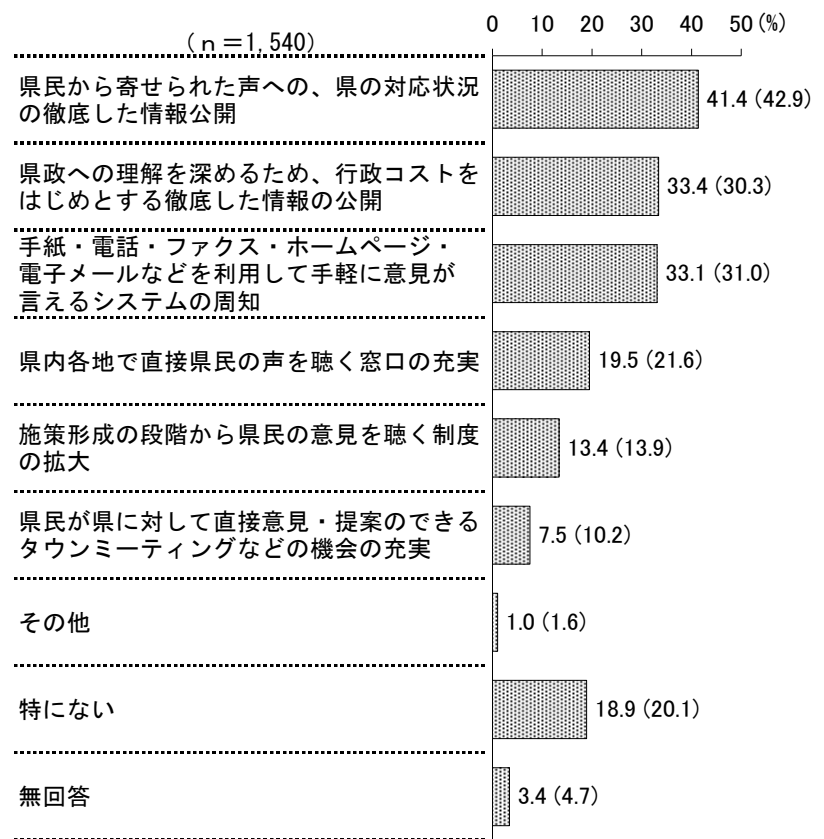


注) () 書きは、平成 27 年度の調査結果を示している。

(9) 県政に対する意見を述べやすくするために必要なこと

(複数回答：3つまで)

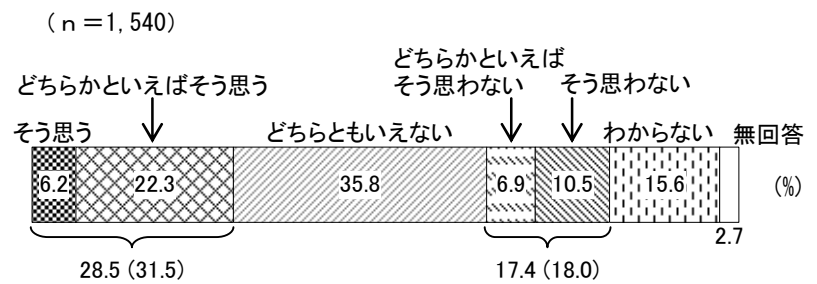
県政に対する意見を述べやすくするために必要なことを3つまで選んでもらったところ、「県民から寄せられた声への、県の対応状況の徹底した情報公開」(41.4%)が4割を超えて最も高く、以下、「県政への理解を深めるため、行政コストをはじめとする徹底した情報の公開」(33.4%)、「手紙・電話・ファクス・ホームページ・電子メールなどを利用して手軽に意見が言えるシステムの周知」(33.1%)、「県内各地で直接県民の声を聴く窓口の充実」(19.5%)、「施策形成の段階から県民の意見を聴く制度の拡大」(13.4%)、「県民が県に対して直接意見・提案のできるタウンミーティングなどの機会の充実」(7.5%)、「その他」(1.0%)、「特にない」(18.9%)、「無回答」(3.4%)が続く。



注) () 書きは、平成 27 年度の調査結果を示している。

(10) 県政への意見の反映

自分の意見を積極的に述べ、県政に反映させたいと思うか聞いたところ、「そう思う」(6.2%)と「どちらかといえばそう思う」(22.3%)を合わせた『そう思う』(28.5%)が約3割となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(6.9%)と「そう思わない」(10.5%)を合わせた『そう思わない』(17.4%)は約2割となっている。



注) 下段の () 書きは、平成 27 年度の調査結果を示している。

【自由回答（抜粋）】

県への意見を自由に記述していただいたところ、316人から延べ365件の回答が寄せられた。記述いただいた内容は多岐に渡り、県政の各施策におおむね沿った形（合計32項目）で整理した。意見の多い項目に関して、一部抜粋してご意見を記載した。

■県政全般に関する要望

○道路のことなど、管轄がよくわからず、意見をあげる場所が市町村なのか県なのかわからないので、一括で意見できる場があればいいと思う。（女性、30～39歳、東葛飾地域）

■便利な交通網を整備する

○県南部・東部への交通アクセスの改善を望みます。アクセスが向上すればより魅力的な県になると思います。（男性、40～49歳、葛南地域）

■道路を整備する

○県道51号線の本八幡駅前に至る道路の慢性的な渋滞を解決してほしい。船橋駅周辺の道路は、時間はかかりましたが見事に解決されました。（男性、65歳以上、葛南地域）

■災害から県民を守る

○避難所や避難場所が人口に対して足りるのか不安です。（女性、30～39歳、葛南地域）

■次世代を担う子どもの育成支援を充実する

○認定子ども園をもっと増やしてほしい。（女性、30～39歳、東葛飾地域）

■犯罪防止対策をすすめる

○防犯にもっと力を入れてほしい。夜になると、細い道に入ると明かりもなく暗くあぶない道が多いと思います。（女性、30～39歳、葛南地域）

■県政の情報発信について

○インターネットを利用できない人のために、「ちば県民だより」はなくさないでください。
(女性、65歳以上、千葉地域)

■高齢者の福祉を充実する

○高齢者の憩いの場所が少ないと思います。病気になるないように体を動かしたいです。お金があまりかからず楽しく運動できる場所がほしいです。（女性、65歳以上、葛南地域）

■雇用の場を広げる

○若者が県内の中小企業へ目を向けるきっかけを作れば、人材が都内に流れることなく県内で働き、生きていこうと思えるのではないかと。（女性、18～19歳、君津地域）

■医療サービス体制を整備する

○ドクターヘリの導入は画期的です。知人がお世話になり感謝しています。
(女性、65歳以上、葛南地域)

【世論調査に関する意見（抜粋）】

この「世論調査」に関する意見を自由に記述していただいたところ、156人からの回答が寄せられた。これらのご意見から、一部抜粋してご意見を記載した。

- このような調査の機会は、定期的、継続的に行うべきである。（女性、40～49歳、印旛地域）
- 簡単で答えやすいが、回答する気がある人にはもの足りなさも感じる。無難なアンケートが良いと思います。（男性、40～49歳、千葉地域）
- 県政にどのように反映されているか随時周知してほしい。（女性、50～59歳、東葛飾地域）
- 1つの事柄に関してもう少し掘り下げた質問があったら、より深く知ることができると思いました。（女性、65歳以上、千葉地域）
- 専門的なアンケートに驚きました。また、質問が多すぎ疲れました。もう少し簡単な方法を考えられたらと思いました。（女性、65歳以上、千葉地域）